

仙南けやき教室便り ③

不登校は、感動的な日常にしてくれる

朝、起きて、学校に行って、友達と遊び、部活をし、ご飯を食べて、お風呂に入り、床につく。
これは「普段の日常風景」です。

しかし、子どもが学校に行けなくなると、一変します。
子どもから、笑顔が消え、下を向いて涙を流している。
そして、ふさぎ込み、身体を固く丸めて動かない。
布団から出ない。ご飯も食わず、風呂も入りたがらない。
声を掛けても返事はなく、目を合わせない。

そんな苦しい、重たい時間が続きます。

しかし、その中で、こんな瞬間に出会うことがあるはず！
「子どもがうなずいてくれた」 「ご飯を食べた」
「布団から起きた」 「着替えた」
「笑った」・・・

そんな瞬間に、出会くと、涙がこぼれるほど、胸がいっぱいになります。

「日常が、なんと、尊く、愛おしいものだ」 ということに気付かせてくれるのです。
～ 不登校は悪いことではない ～

最近のけやき教室

1月下旬、10年に一度の寒波の日。
「雪ダルマ」を作ろうとしたら、
いろいろ手直しをしているうちに
「くまダルマ」になってしまった！
でも可愛い！

